

人権教育資料の分析的研究 1

－「協力的」「参加的」「体験的」な学習を中心とする指導例示の特色と傾向－

梅 野 正 信*

(平成23年 9 月30日受付；平成23年11月 8 日受理)

要 旨

教育委員会等が作成する人権教育関係指導資料等において例示された指導モデルのうち，とりわけ，人権感覚の育成を目的とした「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」等の例示の特色や傾向の考察から，教育委員会による人権教育資料が，人権教育の国際的動向や研究成果，国内における人権教育の研究・実践の到達点を集約する形で作成されている現状を確認する。

KEY WORDS

Human Rights Education 人権教育
Teachers Guidebook 教師用指導資料

1. はじめに

本稿では，都道府県及び政令指定都市の教育委員会のうち，2008年以降に作成された人権教育指導資料及び教材資料等（以下「人権教育資料」）に関する情報及び資料等の提供（2011年 1 月実施）をうけて，人権教育資料に掲載された指導モデル（以下「指導例示」）の特色と傾向を考察する。

表 1 人権教育指導資料・教材資料の提供を受けた教育委員会

青森県，宮城県，茨城県，栃木県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，新潟県，富山県，石川県，長野県，岐阜県，静岡県，愛知県，三重県，滋賀県，京都府，奈良県，和歌山県，鳥取県，島根県，岡山県，広島県，徳島県，香川県，愛媛県，高知県，福岡県，佐賀県，長崎県，大分県，宮崎県，鹿児島県，札幌市，新潟市，さいたま市，横浜市，川崎市，浜松市，名古屋市，京都市，堺市，神戸市，岡山市，広島市，福岡市（神奈川県，大阪府，兵庫県からは，各教育委員会公式HP上の公開である旨の，また上記掲載以外の教育委員会からは期間中について当該関係資料未作成との回答をいただいた。）

2. 日本の人権教育における「協力的」「参加的」「体験的」な学習の取組経緯

「人権教育のための国連10年国連行動計画」（国連1994年）は，人権教育の指導方法について，「日常生活に関連づけた方法」で行い，「学習する者を参加させる」¹⁾ことを重視するよう指摘した。その後，日本が共同提案国である「人権教育のための世界計画 第1フェーズ（2005－2009年）」でも，初等中等教育における人権教育について，「生徒の日常生活及び関心に関連させる」こと，「活発な参加，協力的な学習並びに連帯感，創造力，及び自尊心を促す」こと，そして，「生徒が実践を通じて学び，人権を実践できる経験に基づいた学習方法を採用する」よう求める指摘が，なされてきた。このような，人権教育・啓発の推進をめぐる国際的な動向を受けて，日本でも，人権擁護施策推進法（1996年）に基づく人権擁護推進審議会（1997年）の答申²⁾において，日本の学校教育における人権教育が，「ともすると知識を一方的に教えるにとどまっている」こと，さらに「日常生活の中で人権上問題のあるような出来事に接した際に，直感的にその出来事はおかしいと思う感性や，日常生活において人権への配慮がその態度や行動に現れるような人権感覚も十分に身に付いていない」との問題点が指摘され，これを受けて，「人権教育・啓発に関する基本計画」（閣議決定2002年）に，日本の学校教育における人権教育は「知的理解にとどまり，人権感覚が十分身に付いていないなど指導方法の問題」があるとの指摘が盛り込まれた。このような，学校教育における人権教育

*学校教育学系

の問題状況をふまえ、文部科学省に設置された「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」（2003年）は、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第一次とりまとめ〕」（2004年）、同〔第二次とりまとめ〕（2006年）、同〔第三次とりまとめ「指導等の在り方編」「実践編」〕（2008年）（以下〔第三次とりまとめ〕）を公表し、人権感覚を育成する基礎となる、価値的・態度的側面や技能的側面の学習においては、「児童生徒が自ら主体的に、しかも学級の他の児童生徒たちとともに学習活動に参加し、協力的に活動し、体験することが不可欠である」³⁾と指摘している。また、「人権を弁護したり、自分とちがう考えや行動様式に対しても寛容であったり、それを尊重するといった価値・態度や、コミュニケーション技能、批判的な思考技能などのような技能」は、「ことばで教えることができるものではなく、児童生徒が自らの経験を通してはじめて学習できるもの」であり、人権感覚を育成するには、「児童生徒が自ら主体的に、しかも学級の他の児童生徒たちとともに学習活動に参加し、協力的に活動し、体験することを通してはじめて身に付く」と指摘した上で、「人権教育の指導方法の基本原理として、児童生徒の『協力』、『参加』、『体験』を中核に置くことの意義」を示唆した。

〔第三次とりまとめ〕が示唆した、「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」は、日本では、1990年代以降、S.フィッシャー・D.ヒクス（1991）、W.クライドナー（1997）、D.セルゲイ・G.バイク（1997）、S.ファウンテン（1993）などの海外の理論や事例、角田尚子①②（2002）等を通して紹介されてきたが、近年になって、ヨーロッパ評議会（2006・2009）の成果が紹介・活用されている。また、森実（1999）、中川喜代子（2000）、平沢安政（2005）、梅野正信（2009、2011）など、人権教育を支援する研究も進展してきた。

しかしながら、このような、書籍、研究書、学会誌、教育雑誌等を含めて考えても、日本における人権教育の、学習活動段階における全国的な取扱状況の特色や傾向を概観可能な資料としては、教員研修に公的な責任を持つ地方教育委員会により作成された人権教育資料においてほか、見当たらない現状にある。

以上の理由から、本稿では、人権感覚の育成にかかわり、とりわけ「参加的な学習」「協力的な学習」「体験的な学習」⁴⁾の取扱状況の特色と傾向を検討するために、都道府県及び政令指定都市教育委員会により作成された人権教育資料における指導例示を考察対象としている。

3. 「人権教育の推進に関する取組状況の調査」（文部科学省2009年）における「協力的」「参加的」「体験的」な学習の取組状況の特色と傾向

前記〔第三次とりまとめ〕は、人権教育の国際的な取組の動向と国内における研究や実践の進展をふまえ、人権教育を通じて培われるべき資質・能力を、「知識的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」から説明した。〔第三次とりまとめ〕の公表後、文科省が行った全国教育委員会及び学校を対象とする〔第三次とりまとめ〕の取組状況に関する調査⁵⁾のうち、学校調査では、人権教育の指導内容において特に重視している内容（複数回答）として、「自他の違いを認め、尊重する意識、多様性に対する肯定的態度」（83.8%）、「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」（72.0%）、「自己についての肯定的態度（自尊感情など）」（66.4%）、「人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度」（44.9%）、「自己の周囲、具体的な場面において、人権侵害を受けている人を支援しようとする意欲・態度」（19.4%）、「正義、自由、平等などの理念の実現、社会の発達に主体的に関与しようとする意欲・態度」（12.4%）等の「価値的・態度的側面」に関わる項目を回答したものが比較的多くみられ、これに、「適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」（65.7%）、「対立的問題に対しても、双方にとってプラスとなる解決法を見出すことのできるような建設的な問題解決技能」（11.7%）、「人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能」（11.5%）、「合理的・分析的に思考し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能」（3.3%）等の「技能的側面」、さらに、「自由、責任、正義、個人の尊厳、権利、義務などの諸概念についての知識」（25.4%）、「人権発展の歴史や人権侵害の現状等についての知識」（19.9%）、「自他の人権を擁護し、人権侵害を予防したり解決するために必要な実践的知識」（17.8%）、「人権に関する国内法や条約等に関する知識」（3.9%）等の「知識的側面」に関連する項目の回答が続いた⁶⁾。調査からは、学校における実際上の運用において、「価値的・態度的側面」に関する指導に力点を置かれる傾向の高い状況を伺い知ることが出来る。

また、〔第三次とりまとめ〕が人権感覚の育成に向けて重点的な活用を示唆する「協力的」「参加的」「体験的」な学習の取組状況については、「よく行っている」（22.3%）と「どちらかといえば行っている」（62.4%）を合わせると、実に84.7%もの肯定的回答がみえる⁷⁾。しかしながら、「協力的」「参加的」「体験的」な学習に係わる課題や困難に関する質問では、「時間の確保等に関する意見、指導等の計画に関する意見、交流・連携に関する意見、指導者の側に関わる課題」等々の回答が多く見られ、「『協力的・参加的・体験的な学習』についての十分な理解がなされていないこと」や「学校全体として、適切な指導計画に基づいた効果的な指導についての教員間の共通理解が定着して

いない」,「教員研修等における都道府県と市町村教育委員会等が連携した学校への支援が期待される」との指摘がなされている⁸⁾。同様の課題に関連しては,都道府県教育委員会に対する調査・質問項目で,「実習・演習型の研修や参加体験型の研修など,研修の方法は多様化しつつある」⁹⁾ものの,依然として「外部講師,伝達講師等の講義を聴く,ビデオ教材を視聴するなど講習型の研修」(70.4%)の占める割合が高く,参加体験型(46.1%),実習・演習型(32.8%),施設訪問やフィールドワーク(6.16%)の普及・浸透に関する課題も,明らかとなった。

4. 教育委員会による人権教育指導資料及び教材資料に掲載された「協力的」「参加的」「体験的」な指導例示の特色と傾向

4.1 指導例示の範囲

本稿は,下記に対象を限定して,「協力的」「参加的」「体験的」な学習を組み入れた指導例示を整理し,考察を加える。

第一に,本稿は,[第三次とりまとめ]をふまえた取組を主な検討対象とすることから,原則として2008年以降に発行された人権教育資料を取り上げている。このため,2007年以前において既に「協力的」「参加的」「体験的」な指導例示を多く掲載してきた,たとえば,東京都教育委員会の『人権教育プログラム(学校教育編)』(2003年及び2004年)や,和歌山県教育委員会『気づく・学ぶ・広げる人権学習 人権教育指導者用手引き』(2004年),同『人権教育学習プラン 対話ですすめる人権学習』(2004年),大阪府教育委員会『OSAKA人権教育ABC』(2007年),岡山県教育委員会『人権教育指導資料Ⅱ ワークショップ(上)』(2004年)等は,検討対象としていない¹⁰⁾。

第二に,本稿は,札幌市教育委員会『子どもの最善の利益を実現するために～子どもの権利に関する指導の手引～実践編』(2009年)のように,「人権教育資料」と同趣旨をもって作成されながらも,さながら「児童の権利に関する条約」や関連する条例等(札幌市の場合は「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」2008年)の普及・教育・啓発を目的とした指導資料・事例集は,検討対象としていない。

第三に,本稿は,都道府県教育委員会や政令指定都市以外の,たとえば,熊本市教育委員会『参加体験型人権学習指導案集』(2005年3月),長崎市教育委員会・長崎市人権教育研究会『人権・同和教育指導案・資料集 つくる 第3集』(2004年3月),及び『同第4集』(2009年3月)など,「協力的」「参加的」「体験的」な学習活動を集約的に掲載した資料の多くを,検討対象としていない。また,教育委員会ではないが,「体験的な学習」の先駆的指導資料に位置づけられる大阪府同和教育研究協議会『わたし 出会い 発見』(1996)¹¹⁾も,検討対象としていない。

第四に,本稿は人権教育資料に例示された学習活動(プラン)を検討対象とするため,学校名をあげての実践記録や実践事例をとりあげていない。このため,愛知県教育委員会『平成20年度 人権教育研究紀要(第18集)』(2009年3月),同『同(第19集)』(2010年3月),さいたま市教育委員会『平成20年度人権教育実践事例集第8集』(2009年3月),同『同第9集』(2010年3月),大分県教育委員会『人権教育の進め方,第3集』(2008年3月),『同第4集』(2009年3月)等の優れた実践を掲載した資料や事例は,検討対象としていない。

第五に,一般に「参加体験型学習」等の名称で親しまれてきた「体験的」な学習には,実際の体験学習や交流学習から,疑似体験学習,アイスブレイキングやアクティビティ(ブレインストーミング,ウォール・ライティング,ランキング,ロールプレイング,シミュレーション,フォトランゲージなど)にいたる,実に多様な学習活動が含まれる。しかし本稿では,人権感覚の育成を目的とした,「協力的な学習」「参加的な学習」「体験的な学習」を組み合わせた指導例示を中心に整理した。このため,たとえばアイスブレイキングのみが取り扱われた指導例示は除外している¹²⁾。また,静岡県教育委員会による読物教材を活用した討論学習の優れた指導例示や,宮崎県教育委員会による映像教材を用いての優れた指導例示¹³⁾も,本稿の検討対象としていない。

第六に,本稿では,幼稚園・保育所,小・中・高等学校,特別支援学校の取り組みを考察対象とした。したがって,社会教育・生涯学習用の指導資料や,大学における資料や実践¹⁴⁾は,原則として,検討対象としていない。

以上から,本稿の考察は,日本における全ての人権教育資料の検討という点からみれば,限界を有する試みといえる。

下記・表2は,前述の諸点を条件として抽出・整理した指導例示の一覧である。本研究は,今後全ての収集資料について考察を行う心積もりであるが,表2は,資料収集にご協力いただいた表1・50都府県市教育委員会作成による人権教育資料のうち,下線を付した21都府県市の31冊に掲載された指導例示を抽出・整理している。(例示タイトルの後に県名等の文字を入れた略号[青A〇〇]を付している)

表 2

青森県	青森県教育委員会『わたしからみんなへー人権学習の輪を広げるためのガイドブッカー』（人権教育・学習推進協議会／2008年3月）／「プラスストロークの交換 [青A01]」、「私を語る [青A02]」、「あなたなら [青A03]」、「ペーシングとパラフレーズ [青A04]」、「I メッセージでコミュニケーション [青A05]」、「支え支えられの関係づくり [青A06]」、「人権はコミュニケーションから [青A07]」、「自然界から人権を学ぼう！ [青A08]」、「子どもの人権ワークショップ [青A09]」、「ミニライブとブラインド体験 [青A10]」、「関わりの中に権利あり [青A11]」、「女性の人権 日常生活をふりかえって [青A12]」
栃木県	栃木県教育委員会『人権教育指導資料 人権教育の改善・充実のためのQ & A（第二集）』（2009年3月）／「どう呼ぶ？ 友達のなまえ [栃A01]」 栃木県教育委員会『教師用資料 県立学校人権教育関係資料 第27集』（平成21年度県立学校人権教育関係資料作成委員会／2010年3月）／「お母さんになるってどんな感じ（妊婦体験をしてみよう） [栃B01]」、「肢体不自由特別支援学校における居住地交流の取組 [栃B02]」
群馬県	群馬県教育委員会『人権教育中学生・高校生用学習教材「共に生きる」学習指導案集（重要課題編）』（2008年3月）／「これ誰のこと [群A01]」、「ちがいのちがいのち [群A02]」
埼玉県	埼玉県教育委員会『人権感覚育成プログラム（学校教育編） 児童・生徒の豊かな人権感覚をはぐくむための「自分」「人」彩発見プログラム』（2008年3月）／「こんなお話ないかな [埼A01]」、「あなたにとって大切なものは？ [埼A02]」、「権利の熱気球～権利のランキング [埼A03]」、「新聞記事から探す人権 [埼A04]」、「『いのち』ってあったかい！ [埼A05]」、「生きているってすばらしい [埼A06]」、「バツタとかまきり どっちのいのちが大切？ [埼A07]」、「あなたならどうする～臓器移植～ [埼A08]」、「じぶん たんけん みらいの じぶんへ [埼A09]」、「ありのままのわたし [埼A10]」、「いいところ探偵 [埼A11]」、「あなたは賛成ですか？ 反対ですか？ [埼A12]」、「みんなにここにっこりなかまだよ！ [埼A13]」、「聞くって どういうこと 話すって どういうこと [埼A14]」、「ノーマライゼーション社会の実現を目指してー障害者との共生ー（疑似体験・実体験） [埼A15]」、「シールで仲間 [埼A16]」、「みんなが楽しめるゲームを考えよう [埼A17]」、「こんなとき どうする [埼A18]」、「公平ってどんなこと [埼A19]」、「一歩前へ進め [埼A20]」、「いろいろな国の遊びを知ろう [埼A21]」、「心でわかり合おう [埼A22]」、「少数派の気持ちは [埼A23]」、「あなたの大切なものは（就職） [埼A24]」、「心の中は？ [埼A25]」、「あなたならどうする [埼A26]」、「匠の里 [埼A27]」、「まかせて！ やってみよう！ さいごまで！ [埼A28]」、「人権とは？ [埼A29]」、「関連づけよう～市民社会とは？～ [埼A30]」、「だれもが安心してくらせるまち [埼A31]」、「ちがいのちがいのち～男女共同参画社会について考える～ [埼A32]」、「ジェンダー（社会的性別）に気づこう！ [埼A33]」 埼玉県教育委員会『人権教育資料 指導実践の手引』（2010年3月）／「みんなだいすき [埼B01]」、「今、わたしのできること [埼B02]」、「少数派の気持ちは？ [埼B03]」
東京都	東京都教育委員会『人権プログラム（学校教育編）』（2008年3月）／「高齢者の心身の特徴と生活 [東A01]」、「地域で生活する外国人ともっと仲良くなろう [東A02]」 東京都教育委員会『人権プログラム（学校教育編）』（2009年3月）／「もっと工夫しよう 家庭の仕事 [東B01]」、「高齢者との交流 [東B02]」、「町の先生との交流会をしよう [東B03]」 東京都教育委員会『人権プログラム（学校教育編）』（2010年3月）／「敬老の集い [東C01]」、「特別支援学校との交流 [東C02]」、「アイヌの伝統及びアイヌ文化を理解する [東C03]」、「児童による全生園ガイドツアー [東C04]」
神奈川県	神奈川県教育委員会『人権学習ワークシート集 一人権教育実践のために 第13集（小・中学校編）ー』（2011年2月）／「たのしいことは どんなこと [神A01]」、「よく見てみよう（学校編） [神A02]」、「みんなで伝え合おう！ [神A03]」、「みんなの力で解決しよう！ [神A04]」 神奈川県教育委員会『人権学習ワークシート集Ⅳ人権教育実践事例・指導の手引き（高校編第13集）』（2011年3月）／「異文化を体験しよう（バーンガ） [神B01]」、「自分や他人を傷つけない携帯電話やインターネットの利用方法を考えよう [神B02]」、「オンリーワンの私を知る [神B03]」、「働き方を考えてみよう [神B04]」、「《男らしさ／女らしさ》って何だろう [神B05]」、「お互いを尊重した交際について考えよう [神B06]」、「自分らしく生きるために～異性愛や同性愛について考えよう～ [神B07]」、「ことばの壁 [神B08]」、「共生を考える [神B09]」
長野県	長野県教育委員会『参加型人権教育プログラム集』（平成20・21年度人権教育推進のための調査研究委員会／2010年3月）／「うれしかったこと [長野A01]」、「人権かるたを作ってみよう [長野A02]」、「発想の転換 [長野A03]」、「ウハウハ [長野A04]」、「人権問題の根をみつけ、対策を考えよう [長野A05]」、「ちがいのちがいのち [長野A06]」、「10年後の同級会 [長野A07]」

静岡県	静岡県教育委員会『静岡県人権教育の手引き すぐに活用できる参加体験型人権学習』（2009年7月）／「ちがいのちがい [静A01]」、「4つのコーナー [静A02]」、「考えよう身近な人権問題 [静A03]」、「子どもの権利って何だろう [静A04]」、「一歩前へ進め [静A05]」、「さわやかさんで みんな にこにこ [静A06]」、「こんなとき どうする？ [静A07]」、「わたしを知ろう・友達を知ろう（障害のある人の人権） [静A08]」
滋賀県	滋賀県教育委員会『人権学習プログラム 第4集』（2009年3月）／「心のきずな 人とのつながり [滋A01]」
京都府	京都府教育委員会『人権学習資料集〈中学校編〉指導の手引き』（2009年3月）／「『世界人権宣言』は人権のリスト [京A01]」、「対立から学ぶ（ウィン・ウィン） [京A02]」、「対立から学ぶ（視点メガネ） [京A03]」、「差別・偏見のない社会を築くために [京A04]」、「いじめの解決法について考えよう [京A05]」
	京都府教育委員会『人権学習資料集〈高等学校編〉』（2010年3月）／「かけがえのない私、あなた [京B01]」、「対立から学ぶ [京B02]」
大阪府	大阪府教育委員会『安全で安心な学校づくり 人権教育COMPASS（平成21年度安全で安心な学校づくり推進事業（府立学校）教材・指導案集）』（2010年3月）／「こんなケースどうする [大A01]」、「話の聴き方 [大A02]」、「足し算トーク [大A03]」
奈良県	奈良県教育委員会『人権教育指導資料集 人権教育の手引き 第51集 ～普遍的な視点からのアプローチ～』（2010年3月）／「新大陸への航海～何を船から捨てますか？～ [奈A01]」、「ウサギの権利 [奈A02]」、「人権カレンダー [奈A03]」、「いろいろな権利を絵に描こう [奈A04]」、「私たちの学級憲法 [奈A05]」、「あなたはどこに立ちますか？ [奈A06]」
和歌山県	和歌山県教育委員会『平成21年度 人権教育リーダー養成講座 実践交流資料（人権教育学習単元）』（2010年1月）／「男だから、女だから [和A01]」、「共にによりよく生きる（権利の熱気球） [和A02]」、「共にによりよく生きる（ちがいのちがい） [和A03]」
岡山県	岡山県教育委員会『人権教育指導資料VI 人権学習ワークシート集(下)』（2009年2月）／「なんでもなれるよ！女の子男の子 [岡A01]」、「障害のある人 [岡A02]」、「お年寄りと交流会をしよう [岡A03]」、「がまんしないで つたえれば いいんだよ [岡A04]」、「世界人権宣言 [岡A05]」、「特別支援学校との交流及び共同学習 [岡A06]」、「対立を生活に生かそう [岡A07]」
	岡山県教育委員会『人権教育実践事例集・環境づくり編』（2010年3月）／「2枚の写真（いじめロールプレイ） [岡B01]」、「身近な問題に気付くことができる人権劇 [岡B02]」
香川県	香川県教育委員会『人権・同和教育資料 参加体験型学習資料 中学校編』（2008年3月）／「集まれ仲間 [香A01]」、「こんなとき、どう答える？ [香A02]」、「一枚の写真から [香A03]」、「わたしのじゃがいも [香A04]」、「もしも世界が100人の村ならば [香A05]」、「男らしさ？女らしさ？ [香A06]」、「お互いを認め、一人一人が大切にされる学級とは [香A07]」、「お部屋を借りたいのですが [香A08]」、「人権って何？ [香A09]」、「どんな学級にしたい？ [香A10]」
	香川県教育委員会『人権・同和教育資料 参加体験型学習資料 高等学校編』（2009年3月）／「人権とは何か（この人ってどんな人？） [香B01]」、「女性に関する課題（チェック＆チェック／損得感情） [香B03]」、「子どもに関する課題（私、何色？） [香B04]」、「子どもに関する課題（どうして、ぶつの？） [香B05]」、「障害者に関する課題（できること） [香B06]」、「高齢者に関する課題（あなたは、賛成・反対？） [香B07]」、「同和問題（結婚条件の熱気球） [香B08]」、「外国人に関する課題（外国人悩み相談室） [香B09]」
福岡県	福岡県教育委員会『人権教育指導者用手引き～児童生徒の人権感覚を育成するために～』（2009年3月）／「わたし だいすき はっけん！ [福A01]」、「仲間の誘い方 [福A02]」、「ころもやもや、どうしたらいいの [福A03]」、「手話で歌おう [福A04]」、「街かどウォッチング～どんな街をつくりたい？ [福A05]」、「共に生きる [福A06]」、「仲間 [福A07]」、「自分のよいところを発見しよう [福A08]」、「人権について考えよう（「人権」に関する記事を探そう！） [福A09]」、「ホームルームや学校の生活づくり [福A10]」
佐賀県	佐賀県教育委員会、佐賀人権・同和教育研究協議会『人権同和教育資料第40集 豊かな人権感覚の育成を目指して その1 人権尊重の視点に立った学校づくり』（2010年3月）／「子どもがたちが笑顔になる人権集会～みんなでいいところさがし～ [佐A01]」、「わたしはわたしよ [佐A02]」、「ともだち、なるほど10 [佐A03]」、「おくんちに行こう [佐A04]」、「すごろくトーク [佐A05]」、「つむじ令 [佐A06]」
長崎県	長崎県民生活部人権・同和对策課『じんけん ながさき 社会啓発資料20 人権・同和教育と啓発をすすめるために』（2011年3月）／「あなたも演出家?! [長崎A01]」、「団体旅行とぶつかって [長崎A02]」、「あなたの人権感覚は？ [長崎A03]」

宮崎県	宮崎県教育委員会『人権教育ハンドブッケー小学校編』（2008年3月）／「いいところさがし [宮A01]」、「どうしようかな [宮A02]」、「話そう！聞こう！みんな友達 [宮A03]」、「わたし大好き！みんなも大好き [宮A04]」、「自分だけの宝物 [宮A05]」、「上手なことわり方 [宮A06]」、「四つのコーナー [宮A07]」、「自分の気持ち・みんなの気持ち [宮A08]」、「1/2成人式をしよう [宮A09]」、「ふわふわ言葉とちくちく言葉 [宮A10]」、「みんな友達・みんなの学級 [宮A11]」、「自分の役割 [宮A12]」、「自分を発見しよう！ [宮A13]」、「あなたなら何と言いますか？ [宮A14]」、「身の回りの色と言葉 [宮A15]」、「なぜ口をきいてくれないの [宮A16]」、「ちがいのちがいの [宮A17]」、「自分も友達もいいところ発見！Xさんからの手紙 [宮A18]」、「いっちゃが宮崎商店街 [宮A19]」
	宮崎県教育委員会『人権教育ハンドブッケー中学校・高等学校編』（2009年3月）／「くさりゲーム [宮B01]」、「ゆるせるランキング 許せないランキング [宮B02]」、「きみという花 [宮B03]」、「魔法のことは [宮B04]」、「共生社会を築こう [宮B05]」、「アサーティブな自己表現をしよう [宮B06]」、「権利の熱気球 [宮B07]」、「海外旅行最適メンバー [宮B08]」、「あなたは聴き上手？ [宮B9]」、「Iメッセージで伝えよう [宮B10]」、「励まし名人 [宮B11]」、「素敵にチェンジ [宮B12]」、「バーンガ [宮B13]」
鹿児島県	鹿児島県教育委員会『人権教育指導資料 実践例集 仲間づくり《男女平等編》』（2009年）／「どっちがするの？どっちががいいの？ [鹿A01]」、「自分の中の『思い込み』について考えよう [鹿A02]」、「デートDVってどんなこと？ [鹿A03]」
	鹿児島県教育委員会『人権教育指導資料 実践例集 仲間づくり《参加型学習編》』（2010年）／「アルバムをつくろう [鹿B01]」、「あなたならどうする [鹿B02]」、「なんて答えたらいいでしょう [鹿B03]」、「救命ボートの中で [鹿B04]」、「聴き上手、話し上手になろう！ [鹿B05]」、「ロールレタリングで自分を見つめよう [鹿B06]」、「言葉の力『ひとこと』を考える [鹿B07]」、「権利の熱気球 [鹿B08]」、「喜怒哀楽～言葉について考える～ [鹿B09]」、「お母さんの仕事 [鹿B10]」
岡山市	岡山市・岡山市教育委員会『体験的参加型学習の手引き みんなのねがい 気づき築く人権の世紀』（2010年）／「子どもの頃にタイムスリップ [岡市A01]」、「わたしの気持ち [岡市A02]」、「感情のリスト [岡市A03]」、「いわれたい言葉 [岡市A04]」、「わたしメッセージ [岡市A05]」、「ともだちどこかな [岡市A06]」、「写真は語る [岡市A07]」、「人権ビンゴ [岡市A08]」、「4 こまマンガを作ろう [岡市A09]」、「短歌でジェンダー [岡市A10]」、「人権タイムライン [岡市A11]」

5. 指導例示の考察

澤田実（2003）は、参加体験型学習を、『人権感覚育成プログラム開発事業報告書』（中川喜代子ほか2003）の指導例示と対照させて、フィールドワーク、フォトランゲージ、シミュレーション、ロールプレイ等の「実体験や疑似体験を通しての学習方法」と、アサーティブ・トレーニング、ブレイン・ストーミング、ランキング、グループワーク等の「合意形成などをめざす話し合いによる学習方法」に分類整理しているが、本稿では、澤田による分類の趣旨をふまえつつ、人権教育資料に例示された「協力的」「参加的」「体験的」な学習を主に含む指導例示を整理し、その特色や傾向の把握を容易にするため、学習活動の内容とともに、以下のように、より細分化した形で整理し、考察を加えることにしたい¹⁵⁾。

5.1 人間関係の改善を目的とする技能の習得

5.1.1 会話指導

小中学校では、これまでも、児童生徒間の対立的な人間関係に留意した取組が多く見られてきたことから、人権教育資料においても、児童生徒間、児童生徒と教師間のコミュニケーションの基礎となり、学級経営や教科等の指導に関わる教育環境を整える取組として、攻撃的な会話や対話の改善を目的とした指導例示が、多く見受けられる。

たとえば、親和的な応答の姿勢や表情、言葉づかい、受容と傾聴の技能を重視した指導例示としては、「どう呼ぶ友達のなまえ [栃A01]」、「聞くって どういうこと 話すって どういうこと [埼A14]」、「話の聴き方 [大A02]」、「あなたは聴き上手？ [宮B9]」、「聴き上手、話し上手になろう！ [鹿B05]」等の、受容的な傾聴を体験する指導例示が、また、「私」を主語にした話し方の技能を学ぶ、「Iメッセージでコミュニケーション [青A05]」、「Iメッセージで伝えよう [宮B10]」や、詰問的、対立的な関係に陥らない親和的なメッセージの交換を習慣づける、「プラスストロークの交換 [青A01]」、「ペーシングとパラフレーズ [青A04]」、「みんなにここにっこりなかまだよ！ [埼A13]」、「お互いを認め、一人一人が大切にされる学級とは [香A07]」、「仲間の誘い方 [福A02]」、「自分の気持ち

ち・みんなの気持ち [宮A08]」、「ふわふわ言葉とちくちく言葉 [宮A10]」、「励まし名人 [宮B11]」、「素敵にチェンジ [宮B12]」、「言葉の力『ひとこと』を考える [鹿B07]」、「喜怒哀楽～言葉について考える～ [鹿B09]」、「いわれたい言葉 [岡市A05]」等が、指導例示として掲載されている。

以上の学習活動は、会話の技能習得にとどまらず、相互に非難を受けない会話体験を重ねることで、児童生徒の自己肯定感を醸成し、相手の言葉を傾聴するという、社会生活や人間関係の基礎、教育・学習の前提となる資質や能力を育てる学習活動として、多くの指導例示に活用されている。

5.1.2 アサーティブ・トレーニングを組み入れた活動

問題場面を想定させ、人間関係を損なわずに自己主張をする非攻撃的自己主張、アサーティブ・トレーニングを組み入れた指導例示も、5.1.1とあわせて、多く確認することができる。

対立場面を設定し、役割演技・ロールプレイを組み入れたり、問題解決的な応答表現や対応をトレーニングする指導例示としては、「あなたは賛成ですか？反対ですか？ [埼A12]」、「心の中は？ [埼A25]」、「あなたならどうする [埼A26]」、「みんなの力で解決しよう！ [神A04]」、「自分や他人を傷つけない携帯電話やインターネットの利用方法を考えよう [神B02]」。「さわやかさんで みんな にこにこ [静A06]」、「かけがえのない私、あなた [京B01]」、「対立から学ぶ [京B02]」、「がまんしないで つたえればいいんだよ [岡A04]」、「対立を生活に生かそう [岡A07]」、「こんなとき、どう答える？ [香A02]」、「ホームルームや学校の生活づくり [福A09]」、「どうしようかなあ [宮A02]」、「上手なことわり方 [宮A06]」、「あなたなら何と言いますか？ [宮A14]」、「アサーティブな自己表現をしよう [宮B06]」、「あなたならどうする [鹿B02]」、「なんて答えたらいいでしょう [鹿B03]」、「わたしメッセージ [岡市A05]」等が、見受けられる。

5.1.3 学校生活の問題状況への対応を考える活動

いじめ行為や村八分行為などのように、悪化した人間関係に遭遇した際の自身の対応を想像しながら意見交換をする指導例示としては、「こんなお話ないかな [埼A01]」、「こんなとき どうする [埼A18]」、「こんなとき どうする？ [静A07]」、「対立から学ぶ（ウィン・ウィン） [京A02]」、「対立から学ぶ（視点メガネ） [京A03]¹⁶⁾」、「いじめの解決法について考えよう [京A05]」、「こんなケースどうする [大A01]」、「2枚の写真（いじめロールプレイ） [岡B01]」、「子どもに関する課題（私、何色？） [香B04]」、「なぜ口をきいてくれないの [宮A16]」等を、確認することができる。いずれも、海外の研究成果等をふまえた、実際に困難な人間関係の改善に尽力する教師や教育行政の立場から工夫された指導例示となっている。

5.2 自己肯定感を育む自己表現の体験

5.2.1 トーキング

児童生徒の自己肯定感を醸成させることの重要性和必要性は、セルフ・エスティームの語等によって、既に学校と教師によって共有されており、5.1の人間関係スキルと同様、他の人の発言を傾聴し、これを親和的に受容する人間関係の基礎を育む学習活動として、広く取り組まれてきた。人権教育資料においても、スゴロク（サイコロ）トークの名称で知られる自己表現のアクティビティを組み入れた、「私を語る [青A02]」、「自然界から人権を学ぼう！ [青A08]」、「ありのままのわたし [埼A10]」、「心のきずな 人とのつながり [滋A01]」、「足し算トーク [大A03]」、「スゴロクトーキング [佐A05]」等の活動をはじめ、次のように、多くの指導例示が掲載されている。「いいところ探偵 [埼A11]」、「まかせて！やってみるよ！さいごまで！ [埼A27]」、「もっと工夫しよう 家庭の仕事 [東B01]」、「うれしかったこと [長野A01]」、「集まれ仲間 [香A01]」、「わたし だいすき はっけん！ [福A01]」、「仲間 [福A07]」、「自分のよいところを発見しよう [福A08]」、「子どもたちが笑顔になる人権集会～みんなでいいとこさがし～ [佐A01]」、「わたしはわたしよ [佐A02]」、「ともだち、なるほど10 [佐A03]」、「いいところさがし [宮A01]」、「話そう！聞こう！みんな友達 [宮A03]」、「わたし大好き！みんなも大好き [宮A04]」、「みんな友達・みんなの学級 [宮A11]」、「自分の役割 [宮A12]」、「自分を発見しよう！ [宮A13]」、「自分も友達もいいところ発見！Xさんからの手紙 [宮A18]」、「きみという花 [宮B03]」、「魔法のことば [宮B04]」、「写真は語る [岡市A07]」。

5.2.2 ふりかえり

5.2.1のような、現実自己表現を促す活動のほかにも、自身のおいたち、自分史のふりかえりの機会を得ることから、自己尊重の感情の醸成を目指す活動もみえる。「じぶん たんけん みらいの じぶんへ [埼A09]」、「自分だけの宝物 [宮A05]」、「1/2成人式をしよう [宮A09]」、「子どもの頃にタイムスリップ [岡市A01]」等は、いずれ

も、自分の大切なものや、自身の成長への気付きを通して、児童生徒の自己尊重の感情を育てようとする取組、指導例示といえる。

5.2.3 ストレス・マネジメント

児童生徒が自身の感情を破綻させることなく、調整することのできる習慣や資質・能力の形成を目指す取組は、「オンリーワンの私を知る [神B03]」、「こころのもやもや、どうしたらいいの [福A03]」、「ロールレタリングで自分を見つめよう [鹿B06]」、「わたしの気持ち [岡市A02]」、「感情のリスト [岡市A03]」等のように、アサーティブ・トレーニングやストレス・マネジメント等の技法を組み合わせた指導例示として、確認することができる。

5.3.意思決定

5.3.1 ランキング

ランキングを活用した取り組みでは、これまでも、前掲『わたし 出会い 発見』（1996）、角田尚子（2002）、ヨーロッパ評議会（2006）等で紹介されてきた「権利の熱気球」が広く知られ、授業、教員研修において広く活用されてきた。このような、ランキングを活用した学習活動は、世界人権宣言、児童の権利に関する条約、男女差別、就職差別など、具体的な学習課題に関する内容の学習や、市民性教育を目的とした学習活動として多く見受けられる。また、グループワークや意見交換のプロセスで受容と承認、傾聴を求めることから、構成員相互の多様性を承認し、寛容と受容の関係を形成する目的においても、広く活用されている。

ランキングでは、ハシゴ型、ダイヤモンドランキング型等、多様な形態がみられるが、権利や条件を減じていく形をとる、「関わりの中に権利あり [青A11]」、「権利の熱気球～権利のランキング [埼A03]」、「共にによりよく生きる（権利の熱気球） [和A02]」、「世界人権宣言 [岡A05]」、「権利の熱気球 [宮B07]」、「権利の熱気球 [鹿B08]」等、多様な想定場面を工夫した指導例示を確認することができる。

ランキングは、「人権はコミュニケーションから¹⁷⁾ [青A07]」をはじめ、障がい者や高齢者等の疑似体験と組み合わせた指導例示も少なくない。他にも、「あなたにとって大切なものは？ [埼A02]」、「あなたの大切なものは（就職） [埼A24]」、「たのしいことは どんなこと [神A01]」、「働き方を考えてみよう [神B04]」、「『世界人権宣言』は人権のリスト [京A01]」、「新大陸への航海～何を船から捨てますか？～ [奈良A01]」、「同和問題（結婚条件の熱気球） [香B08]」等、女性差別や就職差別、外国人差別等、様々な課題を取り扱う学習に应用された指導例示として、確認することができる。

5.3.2 ちがいのちがい

「ちがいのちがい」は、身近な体験や経験から社会的差別・偏見を想起して自覚・共有させ、配慮・区別と人権侵害・偏見差別との違いを確認していくアクティビティとして知られる。5.3.1ランキングと同様、中川喜代子（2000）、ヨーロッパ評議会（2006）にも掲載されてきた学習活動であり、他のアクティビティと組み合わせ、多くの人権教育資料に指導例示として採用されている。「ちがいのちがい（外国人） [群A02]」、「ちがいのちがい～男女共同参画社会について考える～ [埼A32]」、「ちがいのちがい [長野A06]」、「ちがいのちがい [静A01]」、「差別・偏見のない社会を築くために（ちがいのちがい） [京A04]」、「男だから、女だから [和A01]」、「共にによりよく生きる（ちがいのちがい） [和A03]」、「男らしさ？女らしさ？ [香A06]」、「ちがいのちがい [宮A17]」等、女性差別、外国人差別など、多様な学習課題に及んで応用されている。他にも、「ちがいのちがい」と趣旨を同じくする活動としては、「子どもの人権ワークショップ [青A09]」、「これ誰のこと [群A01]」、「公平ってどんなこと [埼A19]」、「≪男らしさ／女らしさ≫って何だろう [神B05]」、「なんでもなれるよ！女の子男の子 [岡A01]」、「女性に関する課題（チェック＆チェック／損得感情） [香B03]」、「高齢者に関する課題（あなたは、賛成・反対？） [香B07]」、「身の回りの色と言葉 [宮A15]」、「ゆるせるランキング 許せないランキング [宮B02]」、「どっちがするの？どっちがいいの？ [鹿A01]」、「自分の中の『思い込み』について考えよう [鹿A02]」、「お母さんの仕事（男女共同参画社会） [鹿B10]」等を、指導例示として確認することができる。

5.3.3 課題場面への意思決定・判断

社会的課題を児童生徒自身の問題、生活経験と結びつけて考えさせる、いわゆる「市民性教育型」のロールプレイ・シミュレーションは、主に社会科や道徳の時間において活用されてきたが、人権教育資料においても、中川喜代子ほか（2003）等で紹介されてきた、「バツとかまきり どっちのいのちが大切？ [埼A07]」をはじめ様々な応用例が指導例示として掲載されている。他にも、次の指導例示を確認することができる。「あなたなら [青A03]」、「女

性の人権 日常生活をふりかえって [青A04]、「あなたならどうする～臓器移植～ [埼A08]」、「関連づけよう～市民社会とは？～ [埼A30]」、「ジェンダー（社会的性別）に気づこう！ [埼A33]」、「ウサギの権利 [奈良A02]」、「お部屋を借りたいのですが [香A08]」、「子どもに関する課題（どうして、ぶつの？） [香B05]」、「団体旅行とぶつかって [長崎A02]」、「デートDVってどんなこと？ [鹿A03]」、「ともだちどこかな [岡市A07]」。

5.4 少数者体験・共感的理解

現に差別を受ける立場に置かれた人々、社会規範となる価値観や行動様式、規則や規制を周知されず、支援のないまま生活する人々の感情を共感的に理解するための学習活動として、ゲームのルールを特定の人だけが知らされないアクティビティ、「バーンガ」（「少数派の気持ちは [埼A23] [埼B03]」、「異文化を体験しよう（バーンガ） [神B01]」、「バーンガ [宮B13]」）をはじめ、「ウハウハ [長野A04]」、「あなたの人権感覚は？ [長崎A03]」、「救命ボートの中で [鹿B04]」等の指導例示を確認することができる。

ヨーロッパ評議会（2006）で紹介されてきた「一歩前へ進め」（「一歩前へ進め [埼A20]」、「一歩前へ進め [静A05]」）のように、相対的に人権が尊重されない状況にある人について、行動を制限される状況に置かれる人の気持ちを想像する活動としては、「シールで仲間 [埼A16]」、「わたしを知ろう・友達を知ろう（障害のある人の人権） [静A08]」、「ことばの壁 [神B08]」等、複数の指導例示に確認することができる。

必ずしも少数者体験とはいえないが、児童生徒の身体の移動によって自身の立場や見解を相対的に自覚する「4つのコーナー」（「4つのコーナー [静A02]」、「あなたはどこに立ちますか？ [奈良A06]」、「四つのコーナー [宮A07]」）も、複数の指導例示に確認することができる。

5.5 固定観念の自覚

自身の差別偏見を助長する無自覚な固定概念に気づき視野を広げるために、社会的課題に係わる写真の全体もしくは一部を用いて意見交換をする学習活動として、「フォトランゲージ」「写真を読む」等がある。これまでもユニセフの学習資料や開発教育関係の実践や資料、ヨーロッパ評議会（2006）等で取り上げられてきた学習活動であるが、人権教育資料においても、「生きているってすばらしい [埼A06]」、「人権とは？ [埼A29]」、「一枚の写真から [香A03]」、「人権とは何か（この人ってどんな人？） [香B01]」等を、指導例示として確認することができる。ほかに、固定観念を自覚させる活動として、「発想の転換 [長野A03]」、「あなたも演出家?! [長崎A01]」等の指導例示を確認することができる。

5.6 交流体験・疑似体験活動

高齢者や障がい者との交流体験を中心とする人権学習は、これまでも、総合的な学習の時間等を活用し、広く取り組まれてきた。交流の前提となる知識、交流時の企画等においては、専門的内容、成果の活用が必要となる。このため、教科等の学習成果や、様々なアクティビティを組み入れた総合的な取組となることが、少なくない。このような、総合的な取組スタイルを含む指導例示としては、「人権はコミュニケーションから [青A07]」、「ミニライブとブラインド体験 [青A10]」、「お母さんになるってどんな感じ（妊婦体験をしてみよう） [栃B01]」、「ノーマライゼーション社会の実現を目指して－障害者との共生－ [埼A15]」、「だれもが安心してくらせるまち [埼A31]」、「みんなだいすき [埼B01]」、「今、わたしのできること [埼B02]」、「特別支援学校との交流 [東C02]」、「障害のある人 [岡A02]」、「お年寄りと交流会をしよう [岡A03]」、「特別支援学校との交流及び共同学習 [岡A06]」、「障害者に関する課題 [香B06]」、「共に生きる [福A06]」、「共生社会を築こう [宮B06]」等を、確認することができる。

フィールドワークや調査を組み入れた学習活動としては、「肢体不自由特別支援学校における居住地交流の取組 [栃B02]」、「高齢者の心身の特徴と生活 [東A01]」、「高齢者との交流 [東B02]」、「町の先生との交流会をしよう（高齢者） [東B03]」、「敬老の集い [東C01]」、「児童による全生園ガイドツアー [東C04]」、「街かどウォッチング～どんな街をつくりたい？ [福A05]」等の指導例示を、確認することができる。

他にも、多様性の容認、権利の承認を含む、国際交流・国際理解学習の視点からの取組として、「心でわかり合おう [埼A22]」、「いろいろな国の遊びを知ろう [埼A21]」、「地域で生活する外国人ともっと仲良くなろう [東A02]」、「アイヌの伝統及びアイヌ文化を理解する [東C03]」、「もしも世界が100人の村ならば [香A05]」、「外国人に関する課題（外国人悩み相談室） [香B09]」、「くさりゲーム [宮B01]」等の指導例示を、確認することができる。

5.7 協力的作業を目的とした活動

児童生徒に「協力的」な学習を組織する取組としては、「みんなで伝え合おう！ [神A03]」のような、協力的体験

そのものを設定する活動、「海外旅行最適メンバー [宮B08]」のような、多様な人間とつながりを持つ大切さに気付く活動、クイズ形式で設定された問題を解く「匠の里 [埼A27]」、「おくんちに行こう [佐A04]」、「いっちゃんが宮崎商店街 [宮A19]」、ビンゴゲームの形で様々な課題に気付かせる、「共生を考える [神B09]」、「考えよう身近な人権問題 [静A03]」、「子どもの権利って何だろう [静A04]」、「人権ビンゴ [岡市A08]」等を、指導事例として確認することができる。

また、ブレインストーミング、ウェッビング、ウォールライティングを活用し、特定の課題について意見を交換し、相互の主張を確認・理解する、「人権って何? [香A09]」、「どんな学級にしたい? [香A10]」等の指導例示を確認することができる。

他にも、制作活動を通して人権尊重の精神や原理、人権の個別課題を考察する学習活動として、「みんなが楽しめるゲームを考えよう [埼A17]」、「人権かるたを作ってみよう [長野A02]」、「人権問題の根をみつけ、対策を考えよう [長野A05]」、「人権カレンダー [奈良A03]」、「いろいろな権利を絵に描こう [奈良A04]」、「私たちの学級憲法 [奈良A05]」、「身近な問題に気付くことができる人権劇 [岡B02]」、「アルバムをつくろう [鹿B01]」、「4こまマンガを作ろう [岡市A09]」、「短歌でジェンダー [岡市A10]」、「人権タイムライン [岡市A11]」等の指導例示を確認することができる。

これらの指導例示においても、ヨーロッパ評議会（2006, 2009）, [第三次とりまとめ] を参照した事例を多く確認することができる。

5.8 その他の活動

以上の他にも、多様な個性の存在と自己肯定感の醸成を企図した、「わたしのじゃがいも [香A04]」、新聞記事を利用した探究的学習として、「新聞記事から探す人権 [埼A04]」、「人権について考えよう（「人権」に関する記事を探そう!） [福A09]」等の指導例示をはじめ、「支え支えられの関係づくり [青A06]」、「10年後の同級会 [長野A07]」、「『いのち』って あったかい! [埼A05]」、「手話で歌おう [福A04]」、「つむじ令 [佐A06]」等、多様な指導例示を確認することができる。

また、近年、岡山県教育委員会『人権教育指導資料Ⅵ 人権学習ワークシート集(下)』（2009年2月）, 「よく見よう（学校編） [神A02]」、「お互いを尊重した交際について考えよう [神B06]」、「自分らしく生きるために～異性愛や同性愛について考えよう～ [神B07]」等のように、若手教員の人権教育に対する関与を支援する目的を持って、ワークシートを中心とする指導例示を掲載する人権教育資料も、作成されてきている。

6. 成果と課題

本稿では、教育委員会が作成する人権教育資料に掲載された指導例示から、人権感覚の育成を目的とする「協力的」「参加的」「体験的」な学習を中心とする指導例示の特色と傾向を考察した。

本稿は、諸種の限定を加えての抽出・整理・考察であり、収集資料の全てを網羅したものとはなっていないが、それでも、指導例示に関する整理及び考察の少ない日本における人権教育研究の現状からみて、人権教育の内容・方法面での現状を把握する上で、一定の役割を果たすのではないかと考えている。

本稿によって、教育委員会による人権教育資料では、中川喜代子ほか（2003）, ヨーロッパ評議会（2006, 2009）, [第三次とりまとめ（実践編）] 等で掲載・紹介されてきた事例が、多様な形で指導例示に活用・応用され、普及・浸透の図られていることが、確認できたように思われる。このことは、教育委員会による人権教育資料が、国際的な動向や研究の成果、国内における人権教育の研究や実践の到達点を集約する形で作成されているという、日本の人権教育の現状ないしは特色を、知らしめるものといえよう。

今後は、人権教育の歴史や基本原理、教科等の実践、個別的な人権課題に関わる指導例示等を対象に、分析と考察を進める予定である。

謝辞 本研究のために資料提供いただいた都道府県・市町村教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。

引用・参考文献

- (1) S. フィッシャー, D. ヒクス 『ワールドスタディーズ教え方・学び方ハンドブッカー』国際理解教育・資料情報センター, 1991年。
- (2) W. クライドナー・社会的責任のための教育者の会 『対立から学ぼう 中等教育におけるカリキュラムと教え方』ERIC国際理解教育センター, 1997年。
- (3) 森実 『参加型学習がひらく未来「人権教育10年」と同和教育』部落解放・人権研究所, 1999年。
- (4) D. セルゲイ・G. バイク 『ヒューマン・ライツー楽しい活動事例集』明石書店, 1993年。
- (5) S. ファウンテン 『It's Only Right! (わたしの権利みんなの権利)』ユニセフ, 1993年。
- (6) 中川喜代子 『人権学習ブックレット「寛容性」』明石書店, 2000年。
- (7) 中川喜代子ほか 『人権感覚育成プログラム開発事業報告書』人権感覚育成プログラム開発委員会 (平成14年文部科学省委託事業・代表中川喜代子), 2003年。
- (8) 澤田実 「人権感覚を磨く様々な学習法」『人権感覚育成プログラム開発事業報告書』, 28～30頁。
- (9) ヨーロッパ評議会・福田弘記① 『人権教育のためのコンパス [羅針盤]』明石書店, 2006年。② 『コンパシット [羅針盤]』人権教育啓発推進センター, 2009年。
- (10) 角田尚子① 『一緒にすすめよう! 人権 人権教育ファシリテーターハンドブック実践編』ERIC国際理解教育センター, 2002年。② 『一緒に考えて! 人権 人権教育ファシリテーターハンドブック発展編』ERIC国際理解教育センター, 2002年。
- (11) 平沢安政 『解説と実践 人権教育のための世界プログラム』解放出版社, 2005年。
- (12) 梅野正信① 「日本社会の人権課題群を学ぶー人権教育としての法教育ー」『21世紀の歴史認識と国際理解』明石書店, 2004年, 240～249頁。② 「人権教育の推進と教員研修の課題」『教員の養成・免許・採用・研修』教育開発研究所, 2008年, 154～159頁。③ 「人権・同和教育に関する国の施策と実践的取組課題」『学校教育の歴史・現状・課題』日本学校教育学会編, 教育開発研究所, 2009年, 237～246頁。④ 「人権教育の四半世紀ー子どもの権利条約, 人権教育の進展ー」『21世紀型学校教育への提言』日本学校教育学会, 教育開発研究所, 2011年, 87～101頁, 136～140頁。

-
- 1) 外務省仮訳<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/kyoiku/index.htm>>
 - 2) 人権擁護推進審議会「人権尊重の理念に関する国民相互の理解を深めるための教育及び啓発に関する施策の総合的な推進に関する基本的事項について(答申)」1999年7月。
 - 3) 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議「人権教育の効果的な指導のための方法と技術」『人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] ～実践編～』2008年3月, 37～38頁。
 - 4) [第三次とりまとめ] では, 「体験的な学習」について, 「必ずしも現実的な体験だけを意味するわけではない」「擬似体験や間接体験をすることも含まれる」「ロールプレイング, シミュレーション, ドラマなど, 多種多様な手法が用いられる」と説明されている。[第三次とりまとめ(指導等の在り方編)] (「人権教育における指導方法の基本原則」及び「『体験的な学習』に関する学習サイクル」) 文部科学省, 2008年3月, 27～29頁。
 - 5) 2009年1月実施。都道府県及び市町村教育委員会1805 (悉皆), 公立小・中・高等学校及び特別支援学校1959 (無作為抽出) を対象として実施。／文部科学省「人権教育の推進に関する取組状況の調査結果について」2009年3月 (以下「報告書」)。
 - 6) 「問12 貴校では, 人権教育の指導内容として, どのような資質・能力を身に付けさせることに力を入れていますか。」(N=1715), 「報告書」46～47頁。
 - 7) 同「問14 人権教育における『協力的・参加的・体験的な学習』に対する取組について, 貴校では, どの程度取り組まれていますか。」(N=1714), 「報告書」49頁。
 - 8) 同「問15 人権教育における『協力的・参加的・体験的な学習』に対する取組を進めていくに当たり, 貴校において特に課題となっている事項, 困難を感じている事項等がありましたら, 回答用紙の所定欄に, 自由に記述して下さい。」, 「報告書」49～50頁。
 - 9) 同20頁。
 - 10) 同様に茨城県教育委員会『人権教育指導資料 第31集』(2009年3月)は, 第25集・第27集・第29集からプログラム名のみ紹介されているため, 本稿ではとりあげていない。
 - 11) 平沢安政・森実監修／大阪府同和教育研究協議会編『わたし出会い発見』1996年。
 - 12) たとえば, 表1 青森県教育委員会の資料に掲載されていた「積み木ワークショップ」, 同様に「心を合わせて」(栃木県), 「言い方を変えると」(長野県), 「ジャンケンゲーム」(京都府), 「つながってつながって」(宮崎県), 「負けジャンケン」(岡山市) など, また, 非言語コミュニケーションゲームである, 「みんなでつくろう」(宮崎県), 「形が合ったよ」(鹿児島県) など。
 - 13) 「テレビCMジンケンジャーの人権啓発」を活用した事例。
 - 14) 大学における「参加的な学習」による人権教育の実践は, 森実(大阪教育大学)をはじめ大学教員によって取り組まれて

いる。筆者も上越教育大学の大学院・学部段階における「総合学習」関係科目で講義・演習に取り入れ、2011年3月11日の東日本大震災を主題とする人権教育、コミュニケーションスキルの授業「みんなの願いを大切に」を開発実践している。東日本震災に関連する新聞記事から参加者各自が関心を持った記事を選び、グループワークでランキングを行い、全体でウォールライティングを用いて分類し、プレゼンテーションと意見交換を行う活動であるが、教育委員会における教員研修や、教員免許更新講習「市民性教育のためのアクティビティ」（2011年7月30日：上越教育大学）等においても、実施している。

- 15) 表2の指導例示タイトルは、角田尚子（2002）ほか内外の著作や他の教育委員会による人権教育資料を参照して掲載した例示資料が少なくない。
- 16) W.クライドラー『対立から学ぼう』を参照した旨付記されている。
- 17) 前掲『わたし 出会い 発見』（1996）を参照した旨付記されている。

Study on a guidebook of human rights education in Japan

—the features and tendencies of examples of activity types—

Masanobu UMENO*

ABSTRACT

This study analyzes the teaching models listed on the guidebook of human rights education which is edited by the Board of Education, and clarify the features and tendencies of human rights education in Japan. According to this analysis, it is revealed that the guidebook of human rights education is an excellent resource which is based on the international trends and on the researches of human rights education in Japan.

KEY WORDS

Human Rights Education

Teachers Guidebook

* School Education